

第 3 部 調査・検討のまとめ

1. 調査・検討のまとめ

本事業では、調査・検討として文献調査、ヒアリング、アンケート調査等を行った(第1部記載)。また、協議体を運営し、その内容について構成員から意見を聴取した(第2部記載)。第3部では、それらの結果を踏まえ、第1部2.4で示した論点について、以下1.1～1.5にまとめた。

論点検討の前提として、こどものウェルビーイングの考え方については、国内外での検討事例を参照し、こどものウェルビーイングを中心に据え、それに関連する要因(こどもの活動、家庭環境、学校環境、地域社会等)を体系的に整理すること、客観的要素と主観的要素の両方を見ることの重要性を確認した。

1.1 沖縄におけるこどものウェルビーイングの必要性(論点①)

沖縄の状況については、沖縄におけるこどもの貧困、ひとり親家庭の多さといった表面的な問題の背景に、安定した雇用機会が少ないという産業構造の問題、さらには歴史的な背景による内地との格差等を確認した。一方で、沖縄には地域コミュニティの豊かさ、楽観的・柔軟な考え方等の優位性があることも確認した。沖縄においては、経済的状況が必ずしも良くはない中で主観的幸福度が高いという特徴があり、その要因は明らかになっていない。以上のように沖縄には他県とは異なる特徴や問題点が多くあり、特に沖縄においてこどものウェルビーイングについての研究の必要性を確認した。

なお、それにあたり、「沖縄のこどもにとって大切なこと」の検討の必要性が協議体において議論され、こども・若者(本人)の要素と、環境要因(本人以外)の要素があることを確認した(図表153)。この内容は現段階での観点であり、今後、調査の進捗(特に沖縄のこどもの特徴)に合わせて更新されることが想定される。

図表 153 沖縄のこどもにとって大切なこと(再掲)

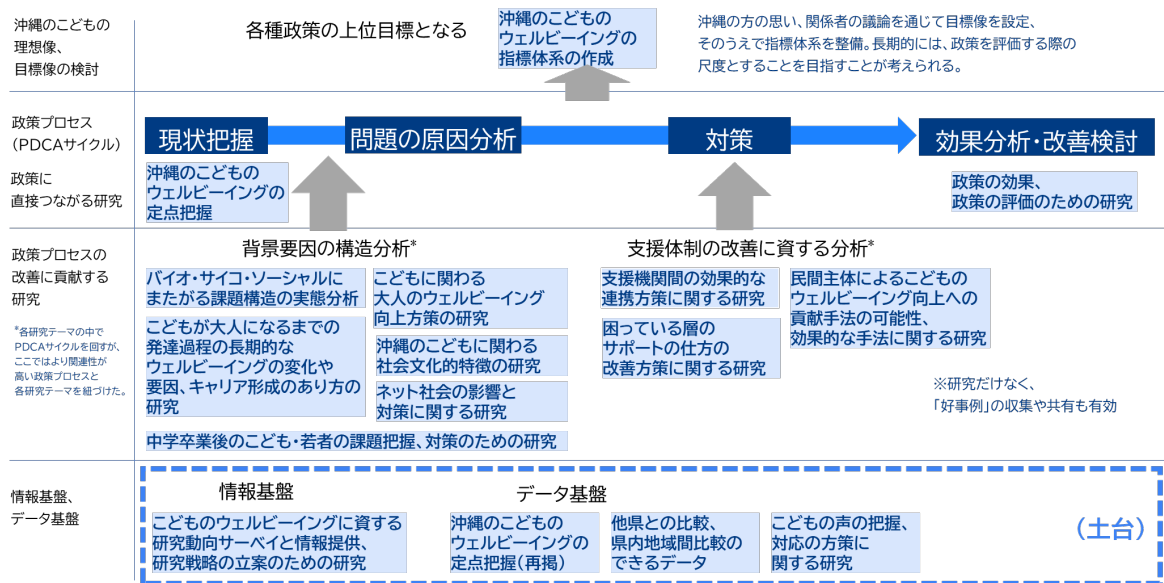
沖縄のこどもにとって大切なこと		その他の大切な観点
- こども・若者(本人) - 自尊心・自己肯定感・自分らしさ - こころの問題 - 体験 - 将来への希望・夢 - 学ぶ楽しさ、学力 - こどもの人権	- 環境要因(本人以外) - 家庭・妊婦・親の状態 - 学校・保育、自治体の役割※¹ - 地域・コミュニティの形成 - 相談する/応援してくれる人 - 貧困対策※² - 安心・安全 - 沖縄独自の文化※³	- 貧困対策を中心に、すべてのこども対象(ポピュレーションアプローチ) - 沖縄県内の好事例の展開(ポジティブ・デビアンس) - データの利活用によるPDCAサイクル

※¹ プレコンセプションケア(妊娠や性感染症の正しい知識の教育・普及啓発等)等を含む
※² 学校・家庭以外のこどもの居場所等(ユースセンター等の若者の居場所を含む)
※³ 人と人のつながりを大切にする文化、家族や地域で応援する文化等

1.2 政策研究が必要なテーマ(論点②)

政策研究の必要性については、論点①に記載した沖縄の特徴、問題を踏まえるとともに、教育、福祉、保健医療等の全国的な研究動向も踏まえて、沖縄において研究が必要なテーマについて検討し、図表154に示すような研究テーマの体系化を行った。具体的な内容は第1部3.3.1に記載している。

図表 154 沖縄におけるこどものウェルビーイングのための研究テーマの体系化(再掲)



また、上記研究テーマのうち、構成員の意見から具体的アプローチ例をまとめた結果が図表 155 である。

図表 155 研究テーマの具体的なアプローチに関する構成員からの意見(再掲)

研究テーマ	具体的アプローチ例
支援機関間の効果的な連携方策に関する研究	● 沖縄県内における各市町村へのアンケート(こどものウェルビーイングに関連する自治体の部課や団体の一覧作成、自治体好事例の収集) ● 福祉人材の確保のための、大学・専門学校・施設で協力したこどもを支える土台の作り方の検討
困っている層のサポートの仕方の改善方策に関する研究	● こどもと大人の考えるウェルビーイングのギャップに関する研究 ● 児童虐待、ACE、社会的養護およびその経験者に関する調査 ● 小規模離島のこどもの背景分析、支援の検討 ● 居場所に関するアンケート調査(居場所にどのような機能があるか、こどもがどのように過ごしているかなど) ● 親がこどもにどのように関わればこどもの自己肯定感を高めることができるかの調査 ● こどものライフコースに沿った課題と必要人材の整理 ● 非行に走ったこどもを対象を限定したアンケート調査 ● プレコンセプションケアに関わる調査 ● 沖縄の教育水準向上や学ぶ楽しさ・自尊心をはぐくむための効果的な方策の調査・実証 ● 離島における絵本の読み聞かせの効果の調査
こどもの声の把握、対応の方策に関する研究	● こどもの意見やデータをどう収集・活用するかに加え、こどもに効果を実感してもらう・結果をフィードバックするための方法の検討 ● こどもが意見を聴いてもらう体験をするための環境づくりの検討
バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる課題構造の実態分析	● 健康長寿や生活習慣に関するこどものデータ分析 ● 小児救急についての状況の把握および対応の検討
中学卒業後のこども・若者の課題把握、対策のための研究	● 今困難な状況にある若者がどういうこども時代を送ってきたかというライフコースに関する調査
こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なウェルビーイングの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究	● 就業体験機会の提供方法の検討

研究テーマ	具体的アプローチ例
こどもに関わる大人のウェルビーイング向上方策の研究	● 幸福を感じていない親に対するヒアリング調査 ● 沖縄のシングルマザーへのアンケート調査及び前向きな回答があった者へのインタビュー調査 ● 沖縄の大人にこどもに関わるゆとりがあるのかに関する調査 ● こどもに関わる大人のウェルビーイング向上に向けた調査(教育・保育分野の実態調査等) ● 教師の幸福度についてのデータ分析や先行研究調査 ● ひとり親家庭における養育費に関する調査 ● 5 歳児健診の実施による小学校入学後の教師の負担軽減についての調査・実証
沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究	● アンケートで幸福だと答えた沖縄のこどもに対する詳細のヒアリング調査 ● アンケートで自分に自信があると答えた沖縄のこどもに対する詳細のヒアリング調査 ● 離島のこどもの幸福度の高さ、島立後の他者評価に関する調査 ● 主観的要素だけではなく、教育や雇用、賃金といった社会の状況に踏み込んだアンケート調査の実施
沖縄のこどものウェルビーイングの定点把握	● こどもに関連したデータの適切な収集・統合的な活用、データの連携や連結方法に関する研究 ● どの施策がこどものウェルビーイングにつながったのか比較するため、全県で共通した項目の設定を行ったうえでの、定点調査としてデータ蓄積・比較検討
沖縄のこどものウェルビーイングの指標体系の作成	● 様々なこどもたちの意見・沖縄県の意見についての Wants と Needs の整理 ● 健康指標(受診率向上による病気の早期発見・早期治療)がこどものウェルビーイングに与える影響の検討
政策の効果、政策の評価のための研究	● 統計データや定点観測的なデータに基づいた沖縄県におけるこどもの関連施策の立案・評価の検討
他県との比較、県内地域間比較のできるデータ	● 沖縄県内や全国と比較可能な共通のデータや指標による客観分析・評価調査 ● 複数地域での比較、支援を受けた人と受けていない人の差異を見るといったデータに基づく検討 ● 全国調査のうち三大都市圏を除外したデータと沖縄県のデータの比較調査
民間主体によるこどものウェルビーイング向上への貢献手法の可能性、効果的な手法に関する研究	● 沖縄の社会課題に取り組むこどもたちを育成するスクール(中学・高校の出席扱い)の開催 ● 学外で自由な発想をぶつけ合い、自分で考えた課題に取り組むユースセンターの運営実証研究 ● 民間企業による公教育支援の在り方の検討
ネット社会の影響と対策に関する研究	● デジタル環境の影響に関する調査
こどものウェルビーイングに資する研究動向サーベイと情報提供、研究戦略の立案のための研究	● こども分野に関する沖縄県内若手研究者の確保・育成

1.3 政策研究のニーズ・用途(論点③)

構成員からの意見より、政策研究のニーズ・用途として、論点②に掲げた個別の研究テーマ案への期待があることを確認できた。また、研究結果を政策現場に活かすための仕組みとして、地域間比較のできるデータ収集、自治体保有データの活用の検討、データに基づく分析(ライフステージによってどんなデータを作成しつなげていくか、健康指標等)、現場で活用しやすい研究成果や情報発信(好事例集、問題の構造化による図解等)という意見を得た。具体的な内容は第 1 部 4.1.1 に記載している。

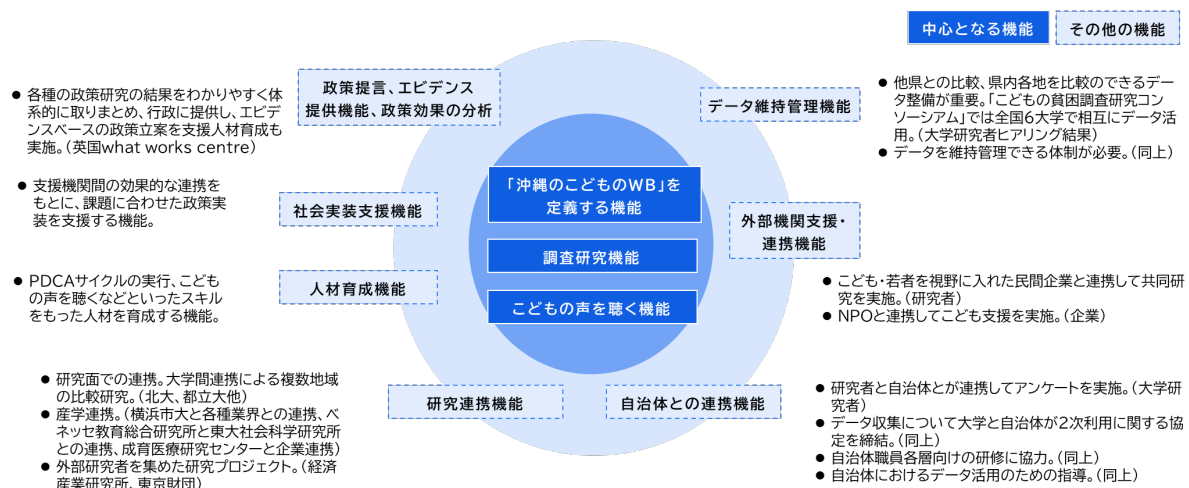
1.4 政策研究の推進体制・機能(論点④)

政策研究の機能については、協議体における意見聴取、県内ヒアリング、県外の研究組織の事例調査等を行った。また、研究組織の事例調査から学際性の発揮、行政等との連携に関する示唆を得た。これらを踏まえて、沖縄のこどものウェルビーイング実現に必要な研究推進機能を、中心となる機能、その

他の機能に分けて示した(図表 156)。具体的な内容は、第 1 部 4.2.5 に記載のとおりである。

- 中心となる機能:「沖縄のこどものウェルビーイング」を定義する機能、調査研究機能、こどもの声を聴く機能
- その他の機能:データ維持管理機能、外部機関支援・連携機能、自治体との連携機能、研究連携機能、人材育成機能、社会実装支援機能、「政策提言、エビデンス提供機能、政策効果の分析」

図表 156 沖縄のこどものウェルビーイング向上に必要な研究推進機能(イメージ)(再掲)



1.5 今後の課題(論点⑤)

今後の検討課題としては、以上のような今年度の検討結果を踏まえ、次のものが挙げられる。

- 沖縄のこどもにとって大切なことの内容についての継続的な検討

協議体の場では、目標を定めることの必要性が議論された(図表 141 山縣座長による検討図式の提案、図表 142 竹原構成員による検討図式の提案参照)。この点は、研究テーマの体系案(図表 154)に示した最上位の階層に関連するものである。協議体の場では前述の図表 153 のとおり一定の結論を得たが、今後本事業において沖縄のこどもに関する特徴の調査・検討を進めていくうえで、新たな要素の追加やより優先すべき観点の特定等を進めていくことが必要だと考えられる。

またその際には、貧困対策を中心にすべてのこどもを対象とすること(ポピュレーションアプローチ)、沖縄県内の好事例を展開すること(ポジティブ・デビアンス)、EBPM・PDCA サイクルの観点を意識する必要がある。

- 沖縄の特徴の調査による研究テーマ等の選定・深掘り

研究テーマとその具体的アプローチ例は、前述の図表 155 のとおりである。次年度以降は、以下のような内容について、実態の把握、対策の検討を行い、沖縄の特徴をさらに把握したうえで研究テーマ等を選定・深掘りしていくことが考えられる。

- 地域別(北部・中部・南部・離島)の沖縄県内の状況調査

アンケート調査の結果にて主観的幸福度が本島と離島で差があるなど、沖縄では地域による状況の違いが想定される。また、構成員からは、離島のこどものほうが幸福を感じている

という結果について深掘り調査をすることで、離島・本島それぞれに有効な施策が見えてくるのではないかという意見もあり、今後さらなる検討が必要と考えられる。

- 環境がこどもに与える影響の調査
昨今のこどもを取り巻く環境として、デジタル環境や薬物依存、こどもの愛着形成(絵本の読み聞かせの有無等)、5 歳児健診前後のケアの有無等も注目されており、沖縄の状況についても本事業において検討が必要だと考えられる。
- ひとり親家庭の調査および対策の検討
沖縄県では、全国と比較して離婚率やひとり親世帯の低所得割合が高い等、全国のひとり親と異なる状況がある。例えば、沖縄県が実施している「沖縄県ひとり親世帯等実態調査」においては母子世帯、父子世帯ともに、全国と比較して養育費の「取り決めをしている」割合が低いこと等も指摘されており⁵¹、ひとり親家庭が抱える深刻な生活状況等について深掘りが必要だと考えられる。
- 人材育成・研修の検討
本事業の今後にあたっては、沖縄の現状の調査だけではなく、実際にその課題を解決するため、こどもを支援する人材の育成や研修に取り組む必要がある。
- 政策実装に向けた対応
今後、政策実装に向けた取組を進める必要がある。また、それに際しては、前述の沖縄県内の好事例を展開すること(ポジティブ・デビアンス)、EBPM・PDCA サイクルの観点を踏まえて実施することが望ましい。

⁵¹ 沖縄県「令和 5 年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査報告書(第 5 章)」
(r05hitorioyachosahoukokusyo_5.pdf)(2026/2/26 閲覧)